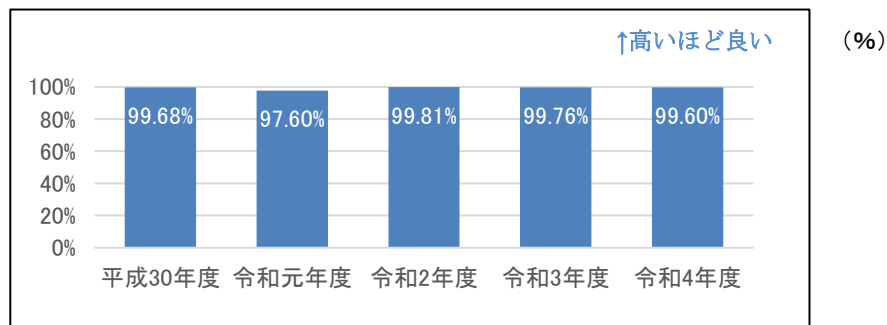


## 16 放射線科医が核医学検査の読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合

### ○項目の解説

「項目15 放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合」と同様に、核医学検査における適切な画像診断がなされていることを評価する指標です。核医学検査が放射線科医の監督の下に適切に行われていることを示す指標ともいえます。画像診断管理加算2または画像診断管理加算3(80%以上が算定要件)の施設基準を取得していない国立大学附属病院は数値が必然的に低くなります。

### ○当院の実績



### ○当院の自己点検評価

当院の核医学部門では、FDG-PETカメラ1台、半導体SPECT/CT装置1台、頭部用3検出器型カメラ1台、汎用型SPECT装置1台が稼働しており、令和4年度は、FDG-PET及びγカメラ製剤によるSPECTを合わせて4,500件を超えるレポートを作成しています。RI内用療法もI-131\*による甲状腺癌、パセドウ病の治療に加えて、Ra-223\*による治療抵抗性前立腺癌の治療を行っておりますが、近年では\*Lu-177による神経内分泌腫瘍の治療、I-131 MIBG\*による褐色細胞腫・パラガングリオーマの治療も保険適応となり、近年ニーズの拡大が見られています。また、これらに伴う外来・病棟業務もこなす必要があることを考慮すると、核医学専従の専門医師数は3名のみと不足していますが、フィルムレス読影システムを工夫して運用することで、効率的な読影が行えるように努力しており、翌営業日までの読影率は99.6%でした。今後も専門医の教育、育成に注力し、通常業務の効率化を図り、より高品質で効率的な画像診断を目指して努力していきたいと考えます。

\*RI内用療法:放射性同位元素を組み込んだ薬剤を経口的あるいは経静脈的に投与し、標的臓器や標的悪性腫瘍に対して体内での放射線照射により治療効果をもたらす放射線治療。

\*I-131:放射性同位元素ヨウ素131。甲状腺疾患治療薬。

\*Ra-223:放射性同位元素ラジウム223。去勢抵抗性前立腺癌の骨転移巣に対する治療薬。

\*Lu-177:放射性同位元素ルテシウム177。神経内分泌腫瘍に対する治療薬。

\*I-131 MIBG:放射性同位元素ヨウ素131 MIBG。褐色細胞腫・パラガングリオーマに対する治療薬。

### ○定義

当該年度1年間の「翌営業日までに放射線科医(及び、核医学診療科医)が読影したレポート数」を「核医学検査実施件数」で除した割合(%)です。「放射線科医」とは医科診療報酬点数表の画像管理加算の要件に従い、経験10年以上、専ら画像診断に従事するものを指します。

○算式 分子:翌営業日までに放射線科医(及び、核医学診療科医)が読影したレポート数